

生徒にとって魅力的な、しかも完成度の高い教科書ができた

東京大学名誉教授・立正大学教授・群馬県立歴史博物館長 黒田日出男

教科書作りへの挑戦

私は、前回の改訂時に帝国書院の依頼を受け、初めて中学校の歴史教科書作りに取り組むことにした。いろいろな制約が多く、検定のある教科書なんぞは金輪際やりたくないと思っていたのに何故引き受けたのか。

大きな理由が二つある。ひとつは歴史教科書をめぐる深刻な事態に直面して、歴史家としての責任を私なりに果たしたくなったからだ。もうひとつは、新学習指導要領のもとでの、いわばゼロからの教科書づくりであることも魅力であった。これなら工夫のしがいがあり、新鮮かつ魅力的な教科書づくりが可能であるように思えたのである。

魅力的な教科書のコンセプトとは

では、どんな教科書をと考えたのか。そのコンセプトを説明しよう。

第一に思ったのは、なによりも大切なのは、よみやすい教科書だということである。それは、生徒が声をだして読みやすいだけでなく、因果的な連関をもった叙述であるがゆえに、よみやすいということなのである。

第二は、生徒たちが自分で歴史を考えることができる教科書と思った。歴史とは断じて暗記物ではない。なぜ、どうしてそうなったのかを考えることが、歴史であり、そのための教科書をつくりたい。

第三は、国際化時代にふさわしい歴史の教

科書であるということである。歴史はさまざまな見方、受けとめ方がありうる。だから、国際化時代を生きるのにふさわしい歴史の柔軟な認識を、生徒たちがつかみとれるような教科書をめざしたい。

第四に、生徒たちが歴史を自分たちなりに考えるためには、生徒たちが五感で、身体ぜんたいで歴史を感じられるような工夫に満ちた教科書であることが大切であろう。つまり、各時代の人々の姿や生活、そして自然環境などを、イメージ豊かに提示できていなければならない。それには、近年の社会史や絵画史料学の成果を生かすことができる。要するに、挿絵・図版なども、本文と同等に重要なのである。

前回の教科書が、どのようなできぐあいかといえ、それは半ば成功し、半ば宿題を残したように思う。別な言い方をすれば、かなり魅力的な教科書ができたと自負できるが、如何せんまだ粗削りであったということになるだろう。

とすれば、今回の改訂版づくりでは、前回の教科書のコンセプトを継承し、その良さ・新鮮さにさらに磨きをかけ、より魅力的で完成度の高い教科書をつくりあげることが目標となるであろう。おざりな改訂は決してすまい。

改訂版は完成した

今回の改訂作業に邁進したスタッフたちの努力はじつに見事であった。その甲斐あってできあがった改訂版は、魅力的かつ完成度の

高い教科書となったと思える。生徒たちに大歓迎されるに違いないと確信している。

その改訂はいかになされたか。

第一に、前回教科書の問題点や弱点として指摘された諸点はすべてクリアした。前回教科書については、本文の記述量が少な目であるとの指摘をうけたが、それにこたえて、今回は本文の記述量を増やすことにした。読みやすく、しかも一層充実した本文へと進化したと思う。

第二に、挿絵・図版をますます充実させた。良いあるいは好評な挿絵・図版はもちろん残した。一例だけ挙げれば、たとえば「トイレの発達」は、便所と結桶の普及が人糞尿施肥という農業技術の発達とどのように関連して

いるかを、生徒たちとじっくりと話し合うのにふさわしい図版構成だから積極的に残した。他方、重複感があったり、あまり効果的でない挿絵・図版はどんどん刷新した。

聖徳太子はかく変貌した

一例だけを示そう。表見返しのページの比較をしてみると、一目瞭然である。

すなわち、今回の改訂版教科書の表見返しには、「歴史に挑戦！」の「序章 人物像の変化を見てみよう！ - 聖徳太子像を比べて -」があり、11世紀の聖徳太子7歳像から現代の漫画家山岸涼子の描いた聖徳太子までが登場する。生徒たちは、聖徳太子像のイメージの

歴史に挑戦！ 序章 人物像の変化を見てみよう！ - 聖徳太子像を比べて -

① 11世紀(平安時代) (奈良県 法興寺藏) 聖徳太子が7歳のころを木像にしたもの。

②は聖徳太子が7歳のときの姿で、聖徳太子の木像としては、一番古いものです。平安時代には、仏教とともに、仏教を日本に広めた聖徳太子も信仰する考え方が、少しずつ生まれてきました。

仁藤先生

③ 13世紀(鎌倉時代) (兵庫県 須崎寺藏) 聖徳太子が35歳のときをえがいたもの。

④の絵がえがかれた鎌倉時代には、仏教を信じる人が多くなり、聖徳太子を信仰する人も増えてきました。だから、⑤と⑥の聖徳太子は威厳があるように見えるね。また、聖徳太子信仰が広まるとともに、多くの伝説も生まれたんだ。上の伝説を紹介した絵巻物がえがかれたのもこの時代だよ。

小和田先生

⑤ 18世紀(江戸時代) (興京大台 沢崎 早別院藏) 聖徳太子が35歳のころを木像にしたもの。

⑥ 20世紀(昭和) 聖徳太子が14歳のころをえがいたもの。

⑦ 21世紀(現代) 漫画家山岸涼子による聖徳太子のイラスト。

みなさんの言うとおり、この人は聖徳太子で古代の人物です。ほかにも上のような伝説があります。なんで、こんな伝説が生まれたかと思いますが、下の説明を読んでみよう。

成田先生

「歴史の扉」の巻風の黒田です。これからみんなをご案内します。さて、このお札にえがかれた人物は、いつごろの、どんな人か知っていますか？ この人物は、小学校で習ったと思うけれど。

黒田先生

6年生のはじめて習ったから、古い時代の人かな。

ひろき

この間、奈良を旅行したときに訪ねたお寺を建てた人だと思わう。

さやか

悪い出した。聖徳太子だ！10人が怒っていることを、同時に理解できた人だ。

かずや

ほかにも聖徳太子にまつわる話を聞いたことがある。なんで、いろいろな話があるのかな。

かおり

変貌を自分たちの目線で実感できるだろう。

洗練度・魅力度ともに、レベルアップしていることは、この表見返しの構成に典型的に現れていると言える。

新登場「タイムスリップ！」

そして第三に、新たに「タイムスリップ！」(古代、中世①・②、近世①・②、近代①・②)を用意した。古代から近世までの五つの「タイムスリップ！」はイラストである。しかし、たんなるイラストではない。

普通の教科書の場合、絵巻や屏風絵・絵図などの図版ですませてしまうところなのであるが、それだと、どうしても一面的な情報しか表現してくれないし、各時代を生きた人々のさまざまな姿や行動、そして生活のありさまを、生徒たちに提示することは困難である。

そこで今回の教科書では、各時代の「生活の舞台」をできるかぎり情報豊かに、生き生きとした世界として示したい、と考えた。それが「タイムスリップ！」である。

この「タイムスリップ！」は、発掘成果や研究成果はもちろんのこと、さまざまな絵画史料に描かれた情報をきちんと集めて、それらを合成してイラスト化したものであり、決していい加減なものではない。たとえば、中世②の博多の町の〈場面〉のイラストは、発掘調査結果を踏まえつつ、絵画史料を活用して描いたものであり、生徒たちの自由かつ柔軟な〈視力〉によって、中世後半の港湾都市の活況と生活のありさまをたくさん〈発見〉できるに相違ない(教科書p.64～65、本誌表紙Ⅳに掲載)。

宮崎駿の「もののけ姫」

一つだけ指摘しよう。

おそらく生徒たちは、宮崎駿監督の「もののけ姫」に登場する白覆面に柿色の衣を着た「ハンセン病者」の姿を、博多の町の一角に見いだすだろう。もちろん、宮崎監督が日本中世史研究の成果に学んだ結果なので、その逆ではない。

この「タイムスリップ！」のイラストと関連し、補い合うものとして、「歴史の舞台①～⑩」がある。こちらには、絵巻・地図・写真・表・復元模型やイラストなどが組み合わされて、歴史を考えることができるように工夫されている。

なお、各4つある「歴史に挑戦」や「体験レポート」など、まだまだ書きたいことは山ほどあるが、残念ながら紙面がない。

ともかく、今回の改訂版は、前回の教科書に改良を加え、さらに充実させ、そして魅力的なものへと進化しつつある教科書であり、21世紀にふさわしい教科書へと完成度を高めつつあると言いたいのである。

生徒たちが自主的に学べる教科書

ところで私は、生徒たちが自主的・自立的に学べる教科書が、教科書のあるべき姿であると思っている。とくに、国際化時代にふさわしい教科書とは、固定観念だけを押しつける内容であってはなるまい。そうした押しつけ的な内容の教科書では、内弁慶の生徒を育てることになり、内向きには役立つかも知れないが、国際化時代には適合できないだろう。東アジアでも、世界でも他者と共に、そして他者に伍して生きていかなければならないのだから。

柔軟に歴史を考え、自分なりに自国の歴史を説明できる力を生徒たちがもてるように、教科書自身も魅力的な力をつけ、変身していくことが求められているはずなのである。